

# 都市再生整備計画 (藤沢駅周辺地区(第2期)) 事後評価 (概要版)

令和8年4月  
藤沢市 藤沢駅周辺地区整備担当

## 都市再生整備計画・事後評価の概要

### ■ 都市再生整備計画・事後評価とは？

「都市再生整備計画」は都市機能や居住環境の向上、居住誘導を図ることを目的に市が策定する計画であり、「事後評価」は「都市再生整備計画」の終了時に、事前に設定した数値目標が達成されているかを確認し、今後のまちづくりに活かすための作業です

藤沢市では、「藤沢駅周辺地区（第2期）」において、令和3年度～令和7年度にかけて、持続可能で強靱な都市構造へ再編を図るために都市再生整備計画を策定し、事業を行ってきました。この度、事業が完了し、まちづくりの事後評価を実施、まちづくりの成果や今後のまちづくり方針などを取りまとめましたので、公表します

### ■ 事後評価のスケジュール

事後評価を適正に実施するために、以下の日程で作業を進めていきました

作業項目	日程
事後評価シート（原案）の公表及び意見の募集（パブリックコメント）	2025年12月3日（水） ～ 2026年1月5日（月）
藤沢市都市再生整備計画等事後評価委員会における審議	2026年3月4日（水）
事後評価の県や国への報告	2026年3月25日（水）
事後評価結果の最終公表	2026年4月上旬

# 藤沢駅周辺地区（第2期）のまちづくりについて

活力とにぎわいのまちづくりを目指し、かつ安全・安心の観点を踏まえ、再活性化に向けた藤沢駅周辺地区再整備事業を推進してきました

## ■ まちづくりの目標

### 【大目標】

藤沢の玄関口にふさわしい、にぎわいや交流を創出し、周辺地域へつなぐ駅前づくり

### 【小目標】

目標①：魅力ある滞留空間・交流拠点の創出

目標②：交通結節点の機能向上及び快適に歩ける空間の創出

## ■ 事業概要

藤沢の玄関口にふさわしいにぎわいや交流のある駅前づくりを目的に事業を行いました。今回は、藤沢駅南北自由通路の整備や道路空間の高質化、またバリアフリー機能の拡充等を行い、快適で回遊性の高い歩行ネットワークを強化しています

対象区域：約100.9ha

事業期間：令和3年度～令和7年度

実施事業：藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業（工事・詳細設計）

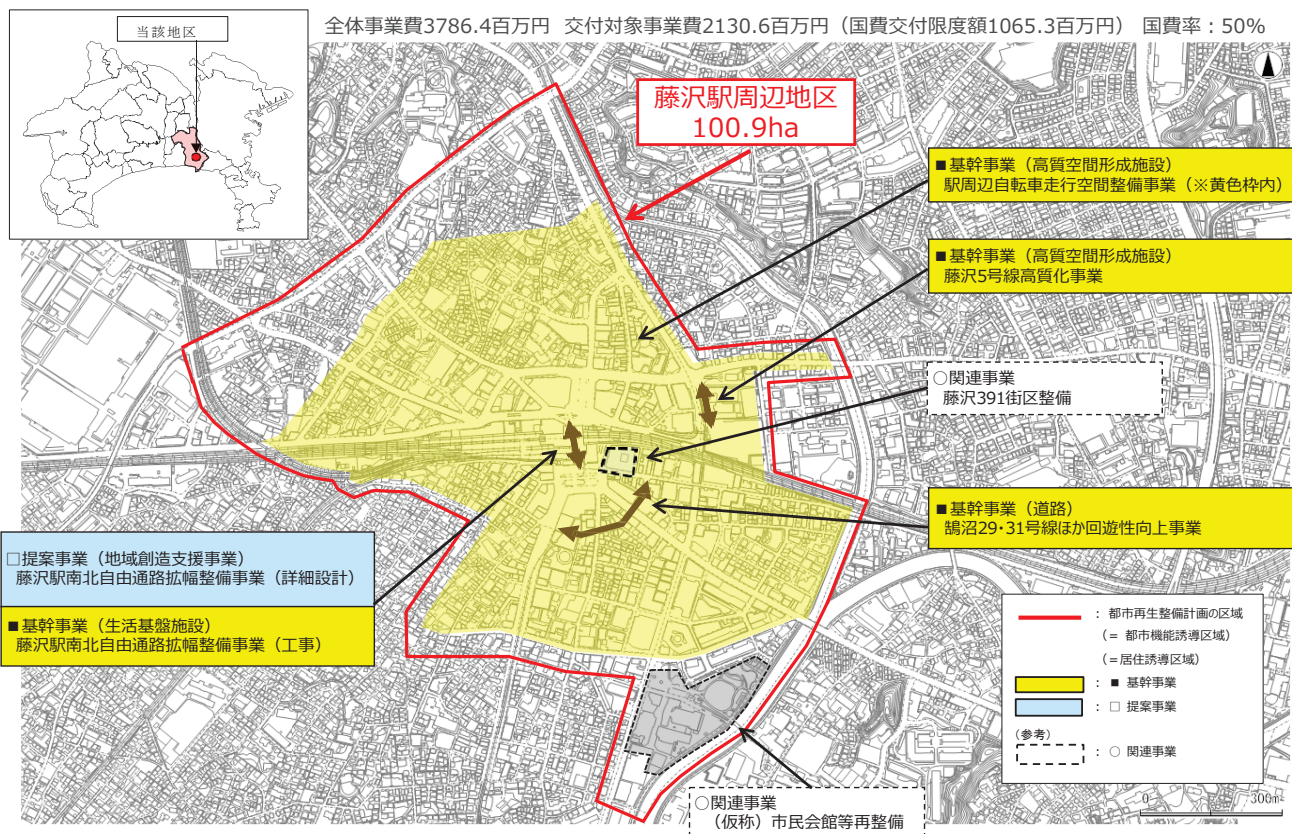
駅周辺自転車走行空間整備事業

藤沢5号線高質化事業

鶴沼29・31号線ほか回遊性向上事業

## ■ 対象区域図

藤沢駅周辺地区（第2期）は、市都心部に位置し、また超高齢社会を迎え市全体のコンパクトな都市構造を形成する上で核となる拠点地区です



# 藤沢駅周辺地区（第2期）での主な実施事業

## ■ 藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業（工事・詳細設計）

小田急線改札口の一部橋上化や自由通路の拡幅（8m→16m）を行い、交通結節点の機能向上を図りました

今後も藤沢の玄関口にふさわしい魅力ある滞留空間・交流拠点の創出等に向け、引き続き自由通路（JR側）の整備を行うとともに南口周辺のバリアフリー整備等を進めていきます



自由通路写真（北口方面から望む）



橋上改札写真

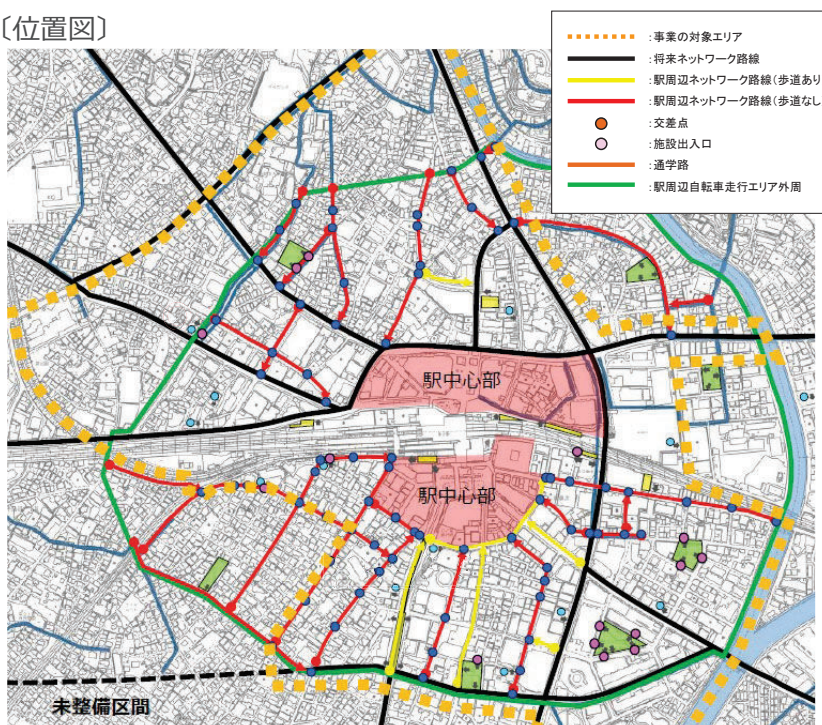
※詳しくはこちら 藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業について（藤沢市HP）

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/fujisawa-eki/nanboku-jiyuutuuro-kakuhukuseibi.html>

## ■ 駅周辺自転車走行空間整備事業

自転車のネットワークを構築するため、道路に矢羽根や自転車ピクトグラム等の整備を行い、安全で快適な歩行空間と自転車走行空間を確保しました

〔位置図〕



## ■ 藤沢5号線高質化事業

歩道幅員の拡幅や舗装の美化化、植栽の設置等で高質化を図ることで、快適で賑わいのある新たな歩行・道路空間の創出を目的とした道路整備を行いました



## ■ 鵜沼29・31号線ほか回遊性向上事業

道路の舗装修繕や点字ブロックの変更により、快適に歩ける空間として機能向上を図りました



## まちづくりの成果確認（事後評価）

### ■ 目標を定量化する指標（数値目標）と達成状況

令和7年度が事業の最終年度にあたり、事業成果の評価・検証を行いました。都市再生整備計画で設定した各数値目標について、達成状況は下表のとおりです

指標		従前値 (R2)	目標値 (R7)	評価値 (R7)	目標 達成度	
1	滞留空間の魅力度	12.8%	19%	<b>52.5%</b>	○	
2	イベント開催日数	20日/年※1	40日/年	<b>87日/年</b>	○	
3	歩行者空間の快適度	20.4%	30%	<b>62.3%</b>	○	
4	自転車の 歩行阻害割合	逆走割合	28.4%(R元)	25.6%	<b>15.8%</b>	○
		歩道走行割合	16.8%(R元)	15.1%	<b>11.5%</b>	
追加	自転車交通事故件数※2	18件/年	—	<b>6件/年</b>	—	

※1:令和2年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行したため、従前値は外出等が制限されていた時期に計測された値となります  
 ※2:事業の実施により、当初設定した目標では計測できない事業効果が表れたので、新たな指標を追加しました

## ■ 定性的な評価

アンケート調査\*で皆さんからいただいた意見など、数値で表わせない効果をまとめます

- 利用者から、小田急線の改札が橋上化され乗り換え等が便利になったことや、歩行エリアが広がったこと、JRから小田急に乗り換える人と南北の通行者との動線の交差が一部解消されたことで歩きやすくなったとの意見があり、**利便性・安全性の向上**につながりました
- 南北自由通路が明るく広くなり見通しも良くなった、新たな箇所は雰囲気の良い素材(床壁等)を使用し上方の空間的広がりも良いと感じたとの意見があり、**自由通路のデザインや空間の検討においても効果が表れています**

### \* アンケート調査について

指標1・3及び定性的な評価について効果を計測するため、アンケート調査を実施しました  
WEB回答もあわせて「265人」から、ご回答をいただきました  
実施日：2/5（木）、2/11（水・祝） 場所：サンパール広場と南北自由通路



## 今後のまちづくり方針について

### ■ まちの課題の変化（今後のまちづくりに必要なこと）

- 駅を中心としたまちの拠点としての機能が強化された一方で、自由通路や駅南口において更新が必要な施設が残されており、**継続的なまちづくりにより、まち全体としての求心力を高める**必要があります。また、イベント時だけでなく、**日常的な交流・活動の場づくりが必要**です
- 駅北口だけでなく、南口や周辺地域の施設なども有効活用し、**周辺地域全体へのにぎわい波及や活力向上が必要**です
- 南口駅前広場や南口周辺などにおいて、**バリアフリー化による利便性や安全性の向上が必要**です

### ■ 今後のまちづくりの方策

- 駅を中心としたまちの拠点性強化とにぎわいの創出に向け、駅周辺だけでなく道路空間や公共施設なども活用した、**市民などの交流・活動機会を日常的に創出**します
- 周辺地域全体へのにぎわい波及や活力向上に向け、駅利用者だけでなく、市民などにとっても**魅力的で利用したくなる駅及び駅周辺の環境整備**を行います
- 駅や駅周辺の利便性や回遊性、安全性の向上に向け、**交通結節点として駅南北間の連携強化や良好な自転車環境の維持・向上**を図るとともに、駅南口に残されている**老朽化した都市施設などの機能更新**を行います